
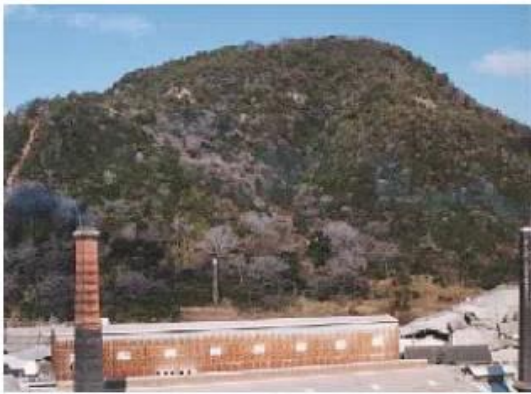


山陽道の要衝にある山城
三石城跡



指定区分	県指定史跡
読みかた	みついしじょうあと
所在地	備前市三石
指定年月日	昭和54年3月27日
解説	南朝方の挙兵に呼応した伊東大和二郎が山陽道を塞ぐ目的で元弘3年(1333)に城を構えたのが始まりとされる。室町時代には備前守護代の浦上氏が居城とし、城の整備が行われた。戦国時代末期に浦上宗景が天神山城へ移り廃城となった。大手門跡の石垣をはじめ、中世城郭の遺構がよく保存されている。
アクセス方法	JR三石駅から徒歩5分さらに登山口から徒歩60分
公開状況	自由
設備	 駐車場
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	三石城跡
よみかた	みついしじょうあと
しょざいち (所在地)	備前市三石
していたひ (指定した日)	昭和54年3月27日
せつめい	南北朝時代(なんぼくちようじだい)の1333年に、山陽道(さんようどう)の重要(じゅうよう)な地点(ちてん)としてこの城(しろ)がつけられました。室町時代(むろまちじだい)には備前国(びぜんこく)守護代官(しゅごだいかん)の浦上氏(うらかみし)が城に入りましたが、戦国(せんごく)時代おわりごろに浦上氏が天神山城(てんじんやまじょう)へ移(うつ)り、廃城(はいじょう)となりました。